

スタディーツアー報告

9月上旬、ピープルズ・ホープ・ジャパンでは、「あなたの知りたい! 体験したい! にこたえたい!」をキャッチフレーズにタイとカンボジアを訪ねるスタディーツアーを実施しました。参加者は、大学病院や福祉施設で働いている社会人の方々と大学生の皆さんです。

最初の訪問地タイでは、北部チェンマイ県郊外の保健センターを訪ね、PHJ が支援している「子宮頸がん予防トレーニング」を見学し、保健ボランティアさんや保健センタースタッフからはタイの保健システムについて話を聞きました。タイでは、公共の保健システムが整備され、地域住民の保健のために、保健ボランティア、保健センター、公立病院がそれぞれの役割分担を理解し、システムとして機能していることを具体的に理解することができました。PHJ のタイでの役割は側面サポートが主となります。

3日目に空路カンボジアに移動しました。タイとカンボジアは、国境を接している隣国同士なのですが、保健状況がかなり違います。目指す公共の保健システムはほぼ同じなのですが、完成度が全く違います。PHJ も、カンボジアでは保健システム強化とそのための医療従事者の基礎的スキルアップのサポートが主な役割となります。ツアー参加者は、PHJ が活動しているコンポントム州の農村を歩き、母子保健の鍵を握る保健センタースタッフや、伝統的産婆、村のお母さんから母子保健状況を聞きました。参加者は、この聞き取りとタイ

との比較を基に課題点を取りまとめ、保健センタースタッフや村のボランティア等にプレゼンを行いました。このプレゼンをもとに、農村での保健問題について議論しました。

ツアー参加者からは、「実際に活動している村に行って、そこに住んでいるいろいろな立場の人から直接話を聞いたのが良かった」、「タイとカンボジアを比較できた」、「話を聞き、質問する時間が十分あった」とのコメントを頂きました。

世間一般の皆さまからサポートを頂く NGO として、このようなスタディーツアーを通じた情報発信や経験共有にこれからも取り組んでいきたいと思えます。今後も今回同様なスタディーツアーを実施する予定ですので、ご関心のある方は、是非ご連絡下さい。



(石関) 伝統的産婆からの聞き取り(カンボジア)

基本保健統計

国	乳幼児死亡率 (1000人につき)	妊産婦死亡率 (分娩10万件につき)	平均寿命
カンボジア	70	470	59
タイ	6	12	70
日本	3	8	83

出典：ユニセフ「世界子供白書 2009」

巻頭言 / PHJを通してつながったタイへの支援



PHJ運営委員
矢内 明美

武田薬品工業株式会社
コーポレート・コミュニケーション部

当社は、PHJ 発足以来、法人会員として入会させていただいております。特に、武田國男元会長が業界団体の長として理事を引き受けさせていただいた 2004 年から当社の社会貢献担当が PHJ の運営委員を務めさせていただいており、私も 2007 年 2 月に前任者から引継ぎました。

当社の使命は、優れた医薬品を創り出し、人々の健康と医療の未来に貢献することです。社会貢献においても、本業に沿い、医療や健康分野を中心に支援することが望ましいと考えています。その点から、タイ、インドネシア、カンボジアを中心に、HIV/エイズ予防、保健センター建設、母子保健の向上など、地元のニーズに合った医療支援を通じて自立を助ける活動を展開されている PHJ へのサポートは製薬企業にふさわしい貢献だと考えています。

当社の社会貢献活動の中に、1963 年に設立した「武田科学振興財団」があります。当財団は「科学技術の研究を助成・振興し、国内外の科学技術および文化の向上発展に寄与する」ことを目的とし、科学技術研究に対する奨励金の贈呈、主に東南アジアからの医療分野の留学研究者に対する支援、科学技術の研究業績に関連する褒賞（武田医学賞）、科学技術の振興に関する出版物の刊行、図書資料館「杏雨書屋」における本草医書等の保管・整理・公開などの活動をおこなっています。

今春、財団の留学研究者支援プログラムを利用し、東京の国立がんセンターで勉強をされたタイ Nakornping 大学産科（腫瘍学）の Anchalee 医師が PHJ の「タイ子宮頸がん予防プロジェクト」に協力してくださっていることがわかりました。このプロジェクトには当社が 2005 年度から継続支援をさせていただいており偶然の一致に驚きました。Anchalee 医師には、PHJ タイ事務所の Jeeranun 所長が来日された際に、一緒に当社にお運びいただき、PHJ のスタッフとともに懇談の機会を持つことができました。2つの社会貢献活動を結びつけていただいた PHJ に感謝しています。最後になりましたが、PHJ のますますのご発展をお祈りいたします。

● FY2009報告およびFY2010計画 ●

2009 決算および 2010 予算

(単位：円)

科 目	2009 決算	2010 予算
I. 収入の部		
1. 現金寄付	114,389,695	85,300,000
法人	95,184,010	66,000,000
個人	8,517,843	8,500,000
パートナー	2,565,000	2,300,000
一時寄付	8,122,842	8,500,000
2. 商品寄付	2,634,886	
3. 公的補助金	12,203,366	12,400,000
4. 預金利息	390,582	
当期収入 (現金)	126,983,643	97,700,000
当期収入 (商品)	2,634,886	
当期収入合計 (A)	129,618,529	97,700,000
前期繰越 (現金)	50,837,753	74,231,842
〃 (商品)		
収入合計 (B)	180,456,282	171,931,842
II. 支出の部		
1. 事業費	80,374,965 (75.7%)	93,930,000 (79.3%)
現金	73,854,583	93,930,000
為替換算差	3,885,496	
商品	2,634,886	0
2. 募金活動費	15,484,836 (14.6%)	16,000,000 (13.5%)
人件費	9,470,000	9,000,000
経費	6,014,836	7,000,000
3. 管理費	10,364,639 (9.7%)	8,500,000 (7.2%)
人件費	2,452,519	2,500,000
経費	7,912,120	6,000,000
支出合計 (C)	106,224,440 (100%)	118,430,000 (100%)
現金	103,589,554	118,430,000
商品	2,634,886	0
III. 次期繰越 (B-C)		
1. 現金	74,231,842	53,501,842
2. 商品 (在庫)	0	0

2009 事業費内訳 (現金+商品)

(単位：円)

支援事業	現金	商品	合計
タイ	21,487,713		21,487,713
インドネシア	33,082,629		33,082,629
カンボジア	20,732,148	2,634,886	23,367,034
災害支援等	2,437,589		2,437,589
計	77,740,079	2,634,886	80,374,965

監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

理事長 甲谷 勝人 殿

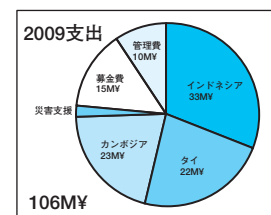
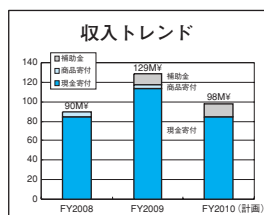
私はピープルズ・ホープ・ジャパンの2009年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なるものと認めます。

2009年8月7日

監事 吉村 文吾

2009 年度活動報告

1. 会計報告



2. 支援活動報告

インドネシア支援 (総事業費 3308 万円)

- 安全な出産と子供の健康な発育をめざして、診療所を中心とした地域医療連携強化を実施しています。その結果村に滞在する助産師数が3倍増になり、活動拠点となる母子保健センターの建設支援に注力しました。
- 医療施設用の安全な水確保のため、ソーラーパネルと高効率ポンプを利用した深井戸を建設し給水を開始しました。
- 鳥インフルエンザ予防事業を、地域ぐるみで実施を開始し、県と一体になった体制整備を完成させます。
- 放射線・超音波画像診断技術教育。 ⑤口腔衛生予防教育

カンボジア支援 (総事業費 2337 万円)

- 保健センター助産師の技術レベルアップを目的に、州病院助産師によるトレーニングを行い普通分娩の助産を行えるようになりました。本事業開始以来、16名のレベルアップを終了しました。
- 農村部の保健センターが適切な母子保健サービスが提供できることを目的に、スタッフの技術力向上・運営力の強化・地域での母子保健知識の共有などを行いました結果、保健センター機能が強化できました。 ③超音波画像診断技術教育

タイ支援 (総事業費 2149 万円)

- 小児先天性心臓病の患者手術を支援し、10人全員の命を救いました。またこの手術をケアする看護師35名および医学生5人に対するトレーニングや、移動検査チームによる地域検診を実施し79名の心臓病患者を診断しました。
- 子宮頸がん予防教育を実施し、予防教育の重要性・効果を啓蒙しました。今年度は8963名(対象者の66%)が診断を受け、649名の異常が見つかりました。このテストの効果は大きく、引き続き実施します。 ③エイズ予防教育 ④HOPEパートナー

支援活動の写真



地域保健センター (インドネシア)



保健保育所センターの子供たち (インドネシア)



助産師トレーニング (カンボジア)



心臓手術に成功した子供たち (タイ)

第14回理事会

8月20日(木)東京国際フォーラム会議室で第14回理事会が開催され、2009年度の事業報告・決算報告、2010年度の事業計画・予算、および役員一部改選が討議され、すべて承認されました。

理事会にはインドネシア駐在の伊藤さん、カンボジア駐在の中田さん、タイ所長のジラナンさんも出席して、役員の方々に現地の報告を行いました。

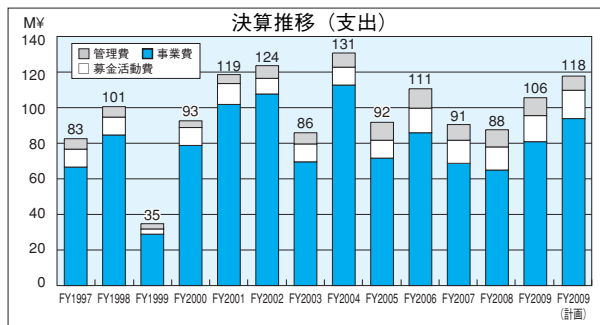
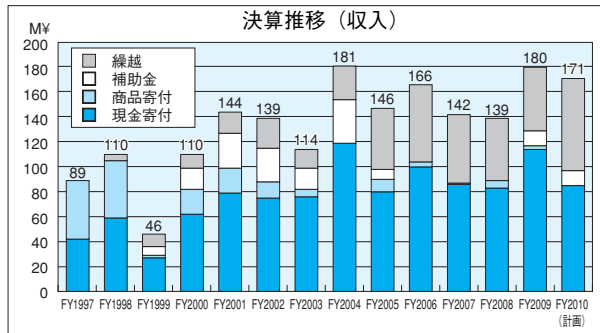


ピープルズ・ホープ・ジャパン役員

(敬称略 50音順)

- 理事長 甲谷 勝人 日本ビューレット・パッカード元社長
- 副理事長 田中 滋 慶応義塾大学 経営大学院 教授
- 副理事長 小田 晋吾 日本ビューレット・パッカード元社長
- 理事 枝村 純朗 元駐ロシア・駐インドネシア大使
- 〃 後藤 幸子 武蔵野市民
- 〃 清家 篤 慶応義塾 塾長
- 〃 竹中 登一 日本製薬団体連合会会長、アステラス製薬(株) 会長
- 〃 中島 康雄 聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室 教授
- 〃 西澤 寛俊 全日本病院協会会長、西岡病院理事長
- 〃 藤森 義明 日本ゼネラル・エレクトリック(株) 代表取締役社長
- 〃 松本 謙一 サクラグローバルホールディング会長、
海外医療機器技術協力会会長
- 〃 溝口 文雄 横河電機 社友
- 〃 木村 敏雄 ピープルズ・ホープ・ジャパン代表
- 監事 吉村 文吾 AIG 会長

13年間の活動を振り返って



プログラム 支援活動地域のタイ・インドネシア・カンボジア3国の共通問題は「母子保健教育の不備による妊産婦や乳幼児の死亡率が高いこと」で、保健センターを中心に住民への教育を続け改善中です。一方ベトナムから「AIDS 予防教育」の希望が強くホーチミン市の国立医科大学とタイアップして、プログラム可能性を調査中です。これは2年前タイに設立した「AIDS 予防教育センター」を活用したベトナム支援の第一歩となります。

収入 寄付規模は発足時の2倍になり、法人からの現金寄付が多い特徴が続いています。最近ではCSRの一般化から企業冠寄付の希望が多く法人寄付の半分以上を占めるようになりました。一方個人会員の増大も必要で様々な方策により力を入れています。補助金も積極的に申請し取得に最大限の努力を入れています。特に経済不況の今日、公的資金は貴重な財源で補助金獲得に全力を尽くします。広報活動にも一層力を入れ認知度アップを努めています。

支出 資金の有効利用を常に考え経費(募金費と管理費の合計)を20%以下に抑え、資金の80%以上をプログラムにまわすよう心がけています。すなわち真水部分を多くすることが肝心です。この特徴は寄付者の大きな関心を呼び、未知の会社からの寄付希望が多く出てきていますので、今後も一層努力してゆきます。

プログラム推移

	1997	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	2009	2010
タイ	(調査)	HOPEパートナー(患者里親制度)		AIDS予防教育	小児心臓手術	子宮頸ガン予防教育								
インドネシア	(調査)	メディカルフォローアッププログラム		口腔衛生教育				超音波寄付	CT据付	画像診断教育	現地化			
カンボジア								母子保健教育						
ボスニア														
ルーマニア	超音波機器		画像診断教育	歯科医療教育										
アフガン				超音波機器	産婦人科	小児科教育								
災害支援		バブア・ニューギニア		トルコ・台湾	インド地震	米テロ			スマトラ	パキスタン・ジャワ		中国・ミャンマー		

出張報告 (インドネシア・カンボジア)

今年7月に両国を視察訪問しました。

インドネシア (伊藤所長) では安全な出産と子供の健康な発育を目指して、村レベルの診療所を中心として地域保健教育活動を実施しています。最近では教育実施場所として保健センターを開設し、保健教育と保育を半々実施しています。訪問した時は保育の時間で子供25人に対し保母さん7人 (村のボランティア) がお手伝いしていました。日本の幼稚園のようなもので現地では初めての施設で、テープ音楽を流しながら楽しそうにお遊戯しており、保母さんから「子供の健全成長にはかかせない」と感謝の言葉をいただきました。保健教育の曜日にはPHJ主催で母子保健教育や栄養教育を妊産婦やお母さんに実施しており、着実な成果をあげています。

一方カンボジアでは助産トレーニングを実施しており、十分な教育を受けられない助産師の卵を病院の力を借りて普通分娩ができるような教育現場に立会いました。教育を受けた助産師が取り上げた元気な赤ちゃん (写真) に会いハッピーな気分になりました。また母子保健レベルを改善するため村の保健センター機能を強化して村人たちが母子保健サービス

を受けられるよう、スタッフの教育や運営ノウハウの伝授、必要な機材提供を行っています。PHJの支援は確実に現地をハッピーにしています。

現地を訪問してみますと、伊藤さんも中田さんも現地の人々に愛され、大勢の人が寄ってきて歓迎されていることを実感しました。大変喜ばしいことで現地常駐の最大の利点だと思います。(須見)



PHJ 寄付の保健教育センター



楽しそうなお遊戯の時間



助産師トレーニング
(左端は中田さん)



元気な赤ちゃん誕生

「ピープルズ・ホープ・ジャパン」代表交代のご挨拶



(新任)
代表 木村 敏雄 (2009.8.20 付)

ピープルズ・ホープ・ジャパンは、「プロジェクト HOPE ジャパン」発足から12年、「Project HOPE」から独立して3年が経過しました。この間、約1900人の個人会員、390社余りの法人会員に支えられ、年間予算1.5億円、主にアジア途上国の保健・医療環境の向上にむけて、教育を中心として自立化支援を行っています。

認定NPO法人・第1号として、またご支援いただいている多くの法人・個人会員の皆様の社会貢献へのご意思を、ピープルズ・ホープ・ジャパンが代行していくという社会的責任の重さも痛感しています。

今後は今までの経験を発展させて、途上国において1人でも多くの人たちが健康で、希望をもって暮らせるよう、現地・現場ニーズの収集・把握に努め、また専門性も高め、日本のNPOらしいきめ細かな支援活動を展開していきたいと思っております。また低い経費率を維持しながらも組織強化を図り、より有効で皆様から信頼される支援活動をしていきたいと思っております。どうぞ、これまで以上のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



(退任)
前代表 須見 彰

12年間大変お世話になりました。ご支援いただきました皆様に支えられてアジア途上国等への医療支援に微力を注いで参りました。

この間、ボランティアの普及、NPO法の成立と取得、認定NPO法成立と日本で第一号取得、企業CSR活動の一般化など時代の流れが私達の活動を後押ししてくれました。

最大の思い出は「募金活動」と「現地支援先訪問」です。募金はズブの素人ですし、最初は成果もなくただ夢を語るのみでした。にも拘わらず大勢の「個人・法人」の方々が応援してくださり支援者が段々増えて参りました。理事や運営委員からのご紹介も大きかったです。「支援先訪問」では現地の方々の喜びの顔に接し、我々の支援が現地の人々の幸せに多少なりとも役立っていることを実感し勇気が湧きました。また新しい視点でニーズを掴むことも多々ありました。

最後にご協力いただいた皆様に感謝申し上げますと共に「ピープルズ・ホープ・ジャパン」の今後一層の発展をお祈りします。ありがとうございました。

カンボジアでの助産師トレーニング

2009年5月より3回にわたり、保健センターで勤める助産師のトレーニングをコンポントム州立病院との協力で実施しました。合計7名の助産師（保健センター4ヶ所）が参加しました。

公的保健機関の助産師とはいえ、彼女達は十分な教育を受けたわけではなく、経験や勘に頼って分娩を行っている場合も多いのです。というのも、カンボジアでは内戦後の復興期に人材不足を解消するために短期間に医療従事者の教育・育成が行われたのです。PHJカンボジア事務所は、対象とする保健センターの助産師のスキル・アップのために保健センターで中心となるサービスのトレーニングを行っていますが、今回は、分娩介助、産後健診の実習を中心に行い、彼女たちが自信を持って分娩介助を行えるように支援しました。

トレーニングは一ヶ月病院に泊り込んで行われます。トレーニングを受ける助産師たちは24時間体制で分娩にあたり、病院スタッフの指導のもとで実習を行います。昼間は、担当の病院スタッフによる講義が行われ、入院中の妊産婦や新生児のケアや保健教育を行います。また、週に2回、病院に付属している保健センターで妊婦健診の実習を行います。講義や実習を通して、知識やスキ

ルを身につけるだけでなく、病院のスタッフとの師弟関係を強め、その後の連携にもつながっています。保健センターで行われる分娩サービスは、普通分娩のみですが、異常分娩が起こった場合には、速やかに病院へ連絡を取り、移送することが可能となりました。

今回のトレーニングでは、2006年から行ってきたプレイヴェン州での助産師トレーニングでの経験が生かされました。活動をご支援いただきました団体・企業や個人の皆様に感謝いたします。また、州保健局/保健行政区の強力な支援があったことも成功の要因であると思います。

村人がより安全な分娩サービスを受け、母子共に健康にお産を乗り切れるような環境作りが出来てきました。私たちは、これからも保健センターと一緒に村人の健康のために活動を進めていこうと思っています。応援よろしく願いいたします。

(中田)



新生児をケアする助産師

タイ：HIV/AIDS 予防教育若年層への展開

ピーブルズ・ホープ・タイランド (PHJT) は2000年よりチェンマイ県の多くの大学、高校と共同で若年層対象のHIV/AIDSプログラムをスタートさせました。2008年度にはPHJ経由で日本の企業からの支援を得、パヤップ大学でHIV/AIDS予防教育を実施し、合計4500人以上の学生がHIV/AIDSへの関心度を高めました。

その推進役のパヤップ大学 学生育成センターのチャワン・マリホン所長は、新入生に対し毎年HIV予防教育を受けさせるようプログラムを組んで下さいました。このプログラムの特徴はピア教育です。本年は24名のピア教育リーダーを育成し、友人たちやほかの大学の学生ならびに高校生に学んだ知識を広めるという方法です。

それらの教育活動に加え、スポーツデイあるいは新入生歓迎会など大学の行事および地元の伝統的な各種の行事、例えばロイ・クラトン祭などにあわせ

て教育啓蒙活動を開催し、12学部から1049名の学生がピア教育を受けました。さらに10ヶ月間の間に8回のピア教育者による



マリホン所長

特別セミナーを開き3513名の学生が参加しました。

以下はマリホン所長の言葉です。

「パヤップ大学の学生は生涯にわたりHIVを予防する知識と技術を学びました。大学生は寮生活などでHIVに感染する危険が高いためピア教育で学んだことはとても役に立つと思います。また大学の外にもこの教育の意義を広めて欲しいと思います。」

(HIV/AIDS事業担当マネージャー：
パタワン・セプナムウォン)

感謝のリスト ピープルズ・ホープ・ジャパン (2009年9月15日現在)

*ご協力頂いている法人・団体会員 (敬称略、50音順)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 愛光プラスチック加工所
愛光プラスチック加工所
アイ・ダブリュ・シー
アイデン
アイ・ライティング・システム
秋山錠劑
上尾中央医科グループ
あさの
旭化成ファーマ
旭化成クレンジングメディカル
アサヒビール
味の素
アジレント・テクノロジ
アジレント・テクノロジ・労組
あすか製薬
アステラス製薬
アストラゼネカ
麻生病院
アツデン
アトム・メディカル・インターナショナル
アナログ・デバイスズ
尼崎中央病院
天野エンザイム
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル
アラクス
アルフレッド ダンヒル
アロカテクニカルサービス
いずみクリニック
一誠堂書店
イトウ製菓
伊藤忠商事
稲畑産業
イノメディックス
インターネットイニシアティブ
イビデン
岩塚製菓
AIG
AIG エジソン生命保険
永生病院
エー・アンド・デイ
エーザイ
エース総合リース
AZE
エイ・コレクション
エスエス製薬
エスピー・パシフィック
江戸川病院
NTT ファイナンス
FDK
エプレン
エム・アイ・ピー
エレクタ
エンプレスハウザー ジャパン
オイルス工業
大塚製薬
オー・ティー・エス技術サービス
大林組
大豆生田金属
大宮シティロータリークラブ
岡崎製作所
沖電気工業「愛の募金」
オグロ宝石精機工業
小沢医科器械
織田病院
小野薬品工業
オフイターネ パネライ
オリエンタルモーター
海外医療機器技術協力会
外務省
花王
カガミクリスタル
科研製薬
カシオ計算機
鹿島建設
桂建設
カルテイエ
かわでん
北里大学医学部
キッコーマン
キッセイ薬品工業
キッツ
紀文食品
キヤノン
京セラ
京西テクノス
杏林製薬
協和潤機
共和電業
協和発酵キリン
グラクソ・スミスクライン
クラシエ製薬
グランド山形リース
クリナップ
クレハ
クロエ
グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
湖池屋
廣貫堂 | 甲府紙器
港北出版印刷
向洋電機
興和
国際チャート
コスミック
コモト電機
作間歯科
サクラグローバルホールディング
佐々総合病院
サザン・リージョン病院
佐藤製作所
佐藤製薬
佐藤薬品工業
サノファイ・アベンティス
サムソン
沢井製薬
産経新聞大阪新聞厚生文化事業団
三晃電気
三信電気
三電興業
参天製薬
三和化学研究所
サンスター
GE コマーシャル・ファイナンス・ジャパン
GE キャピタル リーシング
GE ヘルステア・ファイナンス・サービス
GE フリートサービス
GE コーポレート・ファイナンス・サービス
GE 航空機エンジン
GE コンシューマー・ファイナンス
GE コンシューマープロダクツジャパン
GE ヘルステアバイサイエンス
GE 横河メディカルシステム
GE 横河メディカルシステム労組
GE リアル・エステート
シェリング・ブラウ
シェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン
塩野義製薬
シスコシステムズ
シスメックス
澁谷工業
島津インターナショナル
島津製作所
清水建設
ジャガー・ルクルト
商船三井
松竹
昭和アステック
ジョンソン エンド ジョンソン
新川電機
新進
すかいらーく
菅沼製作所
杉田製線
スズケン
住友化学工業
住友商事
住友電気工業
住友電装
スリーエム ヘルステア
聖マリアンナ医科大学
セガサミーホールディングス
石心会
セブラ
セリア新薬工業
セレモアつくば
千寿製薬
セントジュードメディカル
セントラル硝子
全日空
全日本病院協会
全業工業
ソルキア
第一三共
第一薬品工業
タイコヘルス
大正製薬
大成建設
大日本住友製薬
大鵬薬品工業
太陽計測
大洋薬品工業
大和証券エスエムビーシー
大和証券グループ
武田薬品工業
竹中工務店
田辺三菱製薬
ダンヒル
中央電材
中外製薬
中外製薬労働組合
地球市民財団
チャリティ・プラットホーム
ツムラ
帝国通信工業
テイコメディックス
帝人 | テルモ
電通
電通国際情報サービス
東亜電気工業
東海コム工業
東海チャートプロダクツ
東京医科歯科大学歯学部
東京エレクtronデバイス
東京海上日動火災保険
東京ガス
東京計装
東京電機産業
東京電力
東芝 GE タービン・コンポーネンツ
東芝 GE タービン・サービス
東芝三菱電機産業システム
東芝メディカルシステムズ
東薬薬品工業
東邦ホールディングス
東陽工業
東レ
トーアエコー
トーキン工業
トクホン
特定医療法人財団石心会
トヨタ自動車
戸田中央医科グループ
富山化学工業
鳥居薬品
中嶋病院
ナカタニ
ナカノフード建設
ナップ
ナ・デックス
成田コスモポリタンロータリークラブ
西岡病院
西川計測
日医工業
日揮
日本製薬
ニュセン・ジーイー・クレジット
日総工業
日短マネーマーケッツ
日東ベスト
ニノテック
ニプロ
ニプロファーマ
日本イーライリリー
日本化薬
日本経済団体連合会
日本ケミファ
日本コンラックス
日本 GE プラスティックス
日本システム技術
日本新薬
日本生命保険
日本製薬
日本製薬団体連合会
日本ゼネラル・エレクトロニクス
日本電気
日本電子応用
日本電信電話
日本トランスシテイ
日本ヒューレット・パッカード
日本ヒューレット・パッカード 労組
日本ペーリンガーインゲルハイム
日本メジフジックス
日本 4Tロニク
ネットマークス
ノバルティス ファーマ
ノボルディクスファーマ
バイエル薬品
浜製作所
浜松ホトニクス
パラマウントベッド
ヴァンクリーフ&アーペル
ヴァンシロン・コンスタンタン
バンダイ
バンドー化学
万有製薬
ビアジェ
日野病院
東山工業
久光製薬
日立製作所
日立メデコ
ファイザー
菱野金属商事
フリッパズ エレクトロニクス ジャパン
福銀リース
フクダ電子
フジクラ
富士機材
藤子・F・不二雄プロ
富士通
富士ゼロックス
富士電機ホールディングス
富士レビオ | 扶桑薬品工業
プリストル・マイヤーズ
フルカガ電気
古畑病院
プロネクサス
ベネフィット・ワン
ボーム&メルシエ
ホーユー
ポシユロムジャパン
前田道路
松井証券
松下電器産業
松田計装工業
丸石製薬
丸島製作所
丸新プロテック
丸紅
マルホ
三笠製薬
みずほ銀行
三井物産
三菱商事
三菱東京 UFJ 銀行
スリ安全
南九州洋電機
嶺南第一病院
ミ・ソニー ニュヨーク
武蔵野市
武蔵野陽和会病院
村田製作所
牟礼精密
名港海運
明治製菓
明治電機工業
明治安田生命保険
メディカルコミュニ
マリーチョコレートパニー
マルシヤン
持田製薬
盛岡特機
モンテイブ (クオーツ&セラミックス)
モンテイブ (シリコーン)
モンテイブ (シリコーン) 労働組合
モンテグラッパ
モンテローザ
モンブラン
八神製作所
山崎製パン
山武
ヤマト無線
山本商会
UMG ABS
郵船航空サービス
祐徳薬品工業
洋光電子
養命酒製造
横河グループ福祉センター
横河サーテック
横河シカデン
横河商事
横河ソリューションズ
横河デジタルコンピュータ
横河デジタルコンピュータ労働組合
横河電機
横河電機診療センター
横河電機労働組合
横河電子機器
横河電子機器労働組合
横河電陽
横河東亜工業
横河バイオニクス
横河ヒューマンクリエイト
横河フィールドエンジニアリングサービス
横河フィールドエンジニアリングサービス労働組合
横河ブリッジ
横河マニュファクチャリング
横河メタ&インストルメンツ
横河レンタ・リース
ライオン
ラ・ヴェルジュ
ランゲ・アンド・ゾーネ
リコー販売
リンシェン ジャパン
菱洋エレクトロ
ロイヤルホールディングス
ロート製薬
ロジフレックス
ロシュ・ダ・アグノスティックス
ワイ・エフ・リーシング
ワイス
ワイ・ディー・シー
ワイー・ディー・シー労働組合
わかもと製薬
ワコーエンジニアリング |
|---|--|---|--|

合計 387 法人・団体

会員のひろば

「HOPE パートナーと私達」

菅沼 明雄
(HOPE パートナー会員)

私の家族は妻と娘の3人です。一人娘は晩婚夫婦(私40才、妻32才での結婚)にやっと5年目にさずかった宝物です。2回も流産してやっと恵まれた子供です。私は7人兄弟の大家族で育ちましたので、子供には何かと興味があって、何か役に立つことが出来ればと思っていました。

有名人が子供を育て上げたあとで養子縁組をしたり、食育費を援助したりしていることを知り、私どもにもできることがあったらと常々考えておりましたところ、取引先のYMFさんからPHJの話がうかがい、多少でも貢献できればと会員の仲間に入れさせていただきました。

何年かして初めてのパートナーの子供の近況の便りをいただいた時に、米国人の夫妻がその子供を養子にと家族手続きをしたことを知ってびっくり……。そして米国人の心の広さに感激してしまいました。



そのようなことはとても出来ませんが、私どもの出来ることが少しでもPHJの活動の一助になればと、今は2人目のパートナーの子供をお世話させていただいています。

パートナーが少しでも元気になっていく報告のたよりに、こちらも力づけられて頑張ろうと思います。

家族もPHJの活動に理解してくれていますので、これからもよろしくお願い致します。

中国四川省地震災害支援のその後(報告)

昨年5月の四川省大地震に対する災害支援については皆様から貴重なご寄付をいただき、これをPHJと10年以上にわたって友好関係にある上海児童医学センター(SCMC)を通じて使わせていただいております。



成都市で行われた
健康相談キャンペーン

SCMCは中国最先端の子供病院であり、その力で被災地の成都市子供病院(CCH)のスタッフのレベルアップや、地域での医療キャンペーン活性化を行います。

2年計画のうち初年度を経過し、CCHの医療責任者2名をSCMCで2ヶ月間メンタルケアの専門教育を行い、かつ上海での外部活動にも参加させました。更にSCMCからの医療スタッフを成都に派遣し、CCHと協働で地域の健康相談キャンペーンを行いました。

家庭用テキストブックも完成し頒布されており、教育用DVDもほぼ完成しました。(大河内)

寄付・募金についてのお知らせ

* 「クレジット・カード決済」

個人によるご寄付の支払い方法として銀行振込、ゆうちょ銀行電信振り替えに加え、2009年7月11日より「クレジット・カード」によるお支払いも可能になりました。

* 企画募金 用途フリー募金

一口1000円からの募金を常時募集しております。その時に一番必要な活動の支援に使わせていただきます。

* 企画募金 タイの障害児支援募金

タイの障害児に検査とリハビリのチャンスを与えて下さい。一口3,000円と、5,000円からの募金を行っております。

詳しくは <http://www.ph-japan.org> 寄付・募金のページをご覧ください。

2010年カレンダー

恒例のピープルズ・ホープ・ジャパンのカレンダーをお届けできる時期が近づきました。インドネシア、タイ、カンボジア、中国等の子供たちの描いた絵をお楽しみください。暦部分の余白が広いのでメモ記入に便利です。ご家庭で、あるいはオフィスでご使用ください。お申し込み、お問い合わせはホームページまたは事務局までお寄せください。



サイズ：51.4×36.4cm(使用時)

… メールニュースについてのお願い …

▶ 「メールニュース発行」

PHJでは季刊誌「ホープジャパンニュース」に加え毎月の活動報告やお知らせをタイムリーに行うために登録していただいた方にメールニュースを配信するサービスを2010年度に開始する計画です。

▶ e-mail addressのご登録のお願い

現在会員の方は是非e-mail addressを登録してください。会員でない方もe-mail addressを登録していただければメールニュースを配信いたします。

e-mail addressの登録は info@ph-japan.org 宛にお申込みください。なお皆様からいただいた個人情報は適切に管理しピープルズ・ホープ・ジャパンの活動のみに使わせていただきます。